病院理念 「協同の心で、安心・納得できる誠実な医療を通じ、地域医療の向上に努めます」

皆さまと病院を結ぶ情報誌

すまいるみと

平成17年1月30日

第24号

発行所 茨城県厚生連 水戸協同病院 〒310-0015 水戸市宮町3-2-7 TEL 029(231)2371

発行人 津久井一

編集 広報委員会

年頭所感

総合病院水戸協同病院
院長 津久井 一

あけましておめでとうございます。

昨年幸せに過ごした人は、今年も引き続き幸せに、と願い、それほどでなかった方は、今年こそはと思い新年を迎えられたことでしょう。皆様にとって健やかな年になりますようと祈ります。

この「競争社会」において、「共生」は、耳に心地よい響きをもたらします。異なると思われるモノが互いに貸りあうのではなく、思いやりを持って共存するという、調和的、平和的な関係のイメージが、理想的な関係を醸し出すからでしょう。一般社会では、ふつうお互いに利益を得ている関係を「共生」といいますが、生物学では、より厳密に「相利」というそうです。二つの生物が、一緒にいて互いに得をする、どちらかが損をする、どちらでもないの三通りずつに整理します。両方とも得をするが「相利」、片方が得をしているが、他方はさしたる影響がない場合は「片利」、片方が得をして、一方が損をする場合は「寄生」もしくは「補食」関係となり、両方とも損をするかもしれない場合は「競争」ということになります。「共生」と「寄生」は、対立概念ではなく、共生は寄生を包含します。生物学での「共生」は、固定的ではなく、その状況、環境で変化する可能性を秘めています。「日和見（ひよりみ）病原体」・・誰の身体にもごく当たり前に存在する、穏和な「片利」共生者である常在微生物が、体力や免疫力の低下をきっかけに突然牙をむき、「寄生」者に変身し重篤な病状をもたらします。共存と敵対、相互扶助と隷属といった一見対立関係は、実は表裏一体であり、共生関係の連続性の中での両極端を示しています。生物学では、一皮むけば少なからず常に変貌を余儀なくされる緊張関係にあるものなのでしょう。ヒトは、美しい理想を「共生」に見出し、その実現を目指す崇高な精神を持とうとします。持ち続けたいからこそ、共に生きることの本質から目をそらしてはいけないと思います。人類は、たかだか一万年前に、ネアンデルタール人からホモサピエンスになりました。下等な哺乳類が二色、焦点の合わない目から、はっきり見える三色の目「フォベア」を獲得し、二足歩行、脳の発達、ついには明瞭な言葉を獲得しました。喉の構造変化が、言葉を可能にし、互いに意志の疎通が可能になり、人類をこの地で王者に祭り上げたと、いわれます。生物の進化の過程は、地球の誕生から今日に至るまでとどまっていません。大陸移動・合体、超大陸・分裂、衝突と巨大山脈は、地球環境をその都度大きく変えました。異変が生物に変化をもたらしました。気象の変化は、酸素不足をもたらし、「気嚢」を持つ生物を誕生させ、内陸の川、湿地帯に移動し、呼吸器官（肺）を獲得し、魚の「浮き袋」になった、といわれます。弱者は変化をもたらす。必死が思わぬ進化をもたらすのが、人類誕生からホモサピエンスに至るエピソードです。人類は、これ以上進化はしないともいわれます。美しい言葉、響きある「共生」の概念は、ヒトが脳を持ち、言葉を得、心をもった結果の責任を負わせられたのかもしれません。

新年の妄想から覚めますと、現実の対応に困惑します。仕事のこと、家族の健康維持、その他予想もつかない様々の社会変動は果たして正常な「共生」に動くのか、整理がつきかねます。

病院の機能には、病気以外にもいろいろな悩みを持った方々の相談窓口でもありましょう。病院職員は、専門家の集団ですが、いま「全人的」な対応が求められています。なかなか難しいことですが、ホモサピエンスの末裔としての、進化の頭打ちになってしまった地上の王者としての役割を共有したいと思います。御叱責と御助言をお願いいたします。

（平成十七年一月十日）

論壇

病院の「玄関」である外来のサービスのあり方

看護副部長
柏　富代

「外来は病院の玄関」と言われます、病院に来院した際、まず最初に訪れる場所が外来であり、その対応や印象ひとつでその病院全体が評価されているからです。外来では患者様をお待たせしない対応、分かりやすい対応、プライバシーの保護、予約制、待ち時間のアメニティーを快適にする事が大切だと言われています。厚生労働省の統計では診察までの待ち時間30分未満が42％であり当院においても待ち時間短縮に努力していますが、23％と待ち時間がやや長い傾向にあります。当外来では、待ち時間を有効に、心地よく過ごして頂くために、外来部門や病棟通路等に絵画、写真、四季折々の花を展示して待ち時間のアメニティーを快適にする工夫、また診療情報の提供を院内のテレビ（メディネット）放映で、患者様に多くの情報を提供し、医療について少しでもご理解いただけるよう努力しております。

日頃患者様から頂く、ご意見は病院経営においては貴重な財産です。先月、町内くろばね会主催朝市の一角で健康相談を行う機会をいただきました。そこで住民の皆様の連携の強さと信頼感、商店街発展への思い、当院に寄せる期待を強く感じました。信頼され地域に開かれた外来を目指し、「患者様が病院に行こうと決めて、帰るまでの出会いの瞬間」を大切にしていくため、協同病院の理念のもと、「協同の心で、安全、納得の出来る良質な医療を提供し、地域医療の向上と地域住民の健康に努める」を実践し、職員一丸となり、皆様に愛され、評価される病院でありたいと思います。

近年、医療制度の改革に伴い医療情勢が刻々と変化しています。医療と接遇、病棟と外来に置ける継続看護の連携、外来化学療法を行っていますが、今後さらに受け持ち制外来看護、外来看護師の病棟訪問、を含め外来医療のあり方を考え取り組んで行きたいと思います。

入院患者様の食事アンケート結果

栄養主任　菅谷富士子

昨年9月30日～10月1日に入院患者様の食事アンケートを行いました。年一回、この調査を実施しています。

対象者は一般常食を食べている患者様で、男性20名、女性20名の計40名、回答率は65.6%でした。表1からは60歳以上が62.5%と、高齢化の傾向が伺えます。表2、3は食事に対する意識についてです。表4は最近の献立についてです。食品の組み合わせ（前回は良い19%）献立の変化（前回は良い18%）とも、良いという回答が前回より増えました。表5は嗜好についてです。

このようなご意見、アンケート結果をいただきました。

治療に合わせながら献立に反映し、少しでも喫食率を高める等、食事は治療の一つと考えて下さっている患者様の声に応えていきたいと思います。このアンケートは喜ばれる食事を提供するための貴重な資料とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

表1　年齢別対象者数

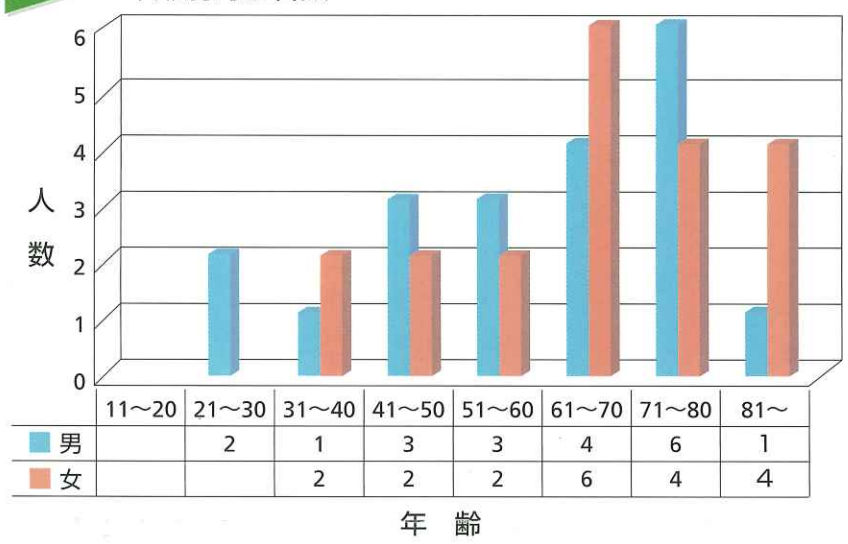


表2　病院の食事は治療の一つだと思うか?

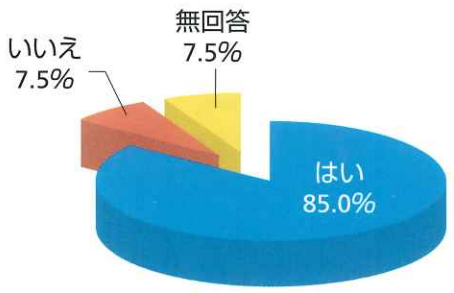


表3　おいしく食べられるか?

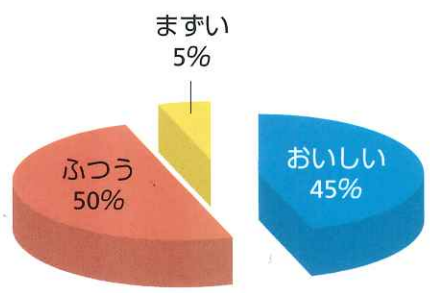


表4-A　食品の組み合わせは?

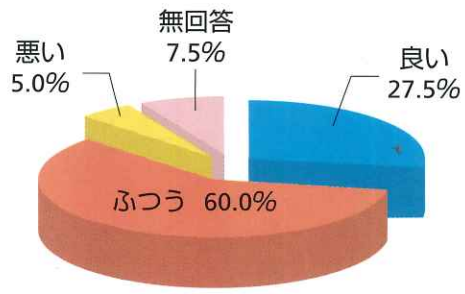


表4-B　献立の変化は?

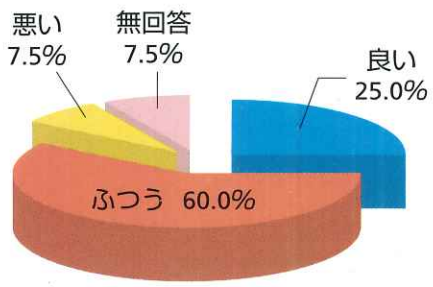


表5-A　よく食べていたおかずは何か?（複数回答）

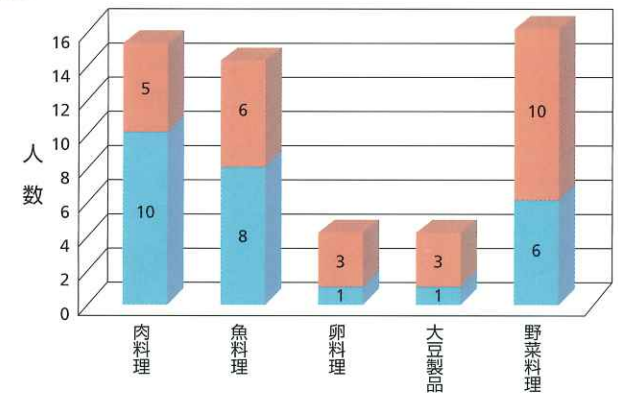


表5-B　好きなごはん料理は?（複数回答）

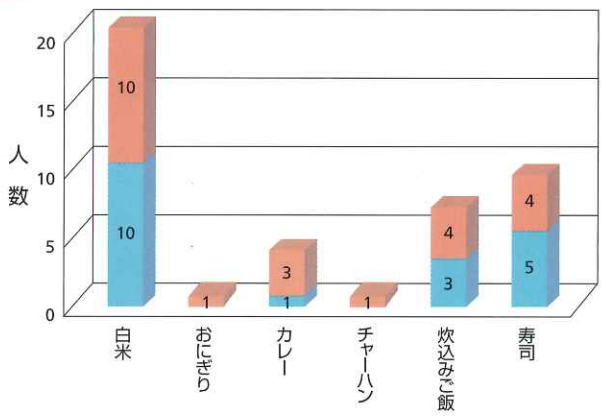


表5-C　好きなめん料理は?

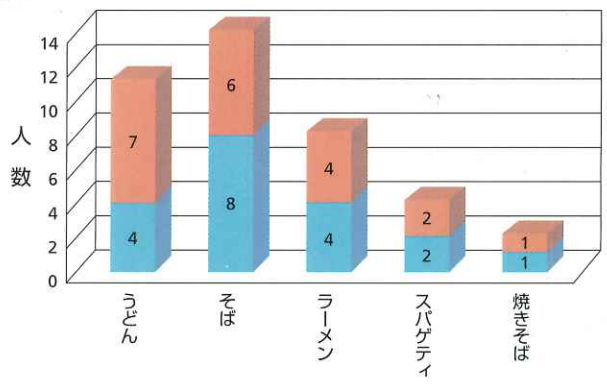


表5-D　好きな肉料理は?

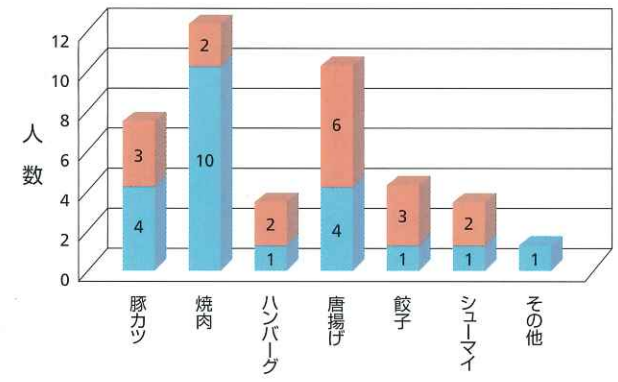
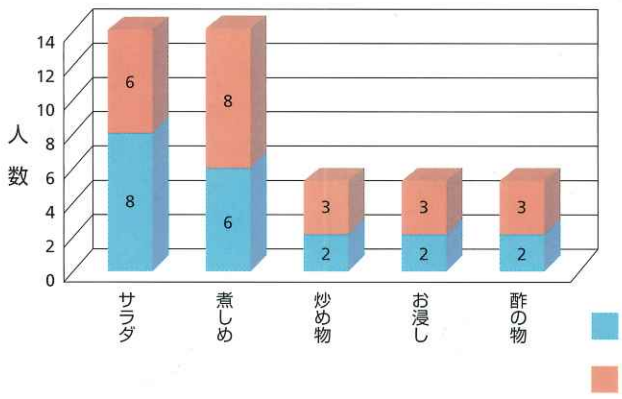


表5-E　好きな野菜料理は?



＜まとめ＞

1. 年齢構成では、61歳以上が62.5%と約2/3を占めており、高齢化の傾向が見られます。
   また、今回の調査では男女同数の回収数であったため、嗜好については男女間の比較も行ないました。
2. 食事に対する意識については、ほとんどの人が病院の食事を治療の一環と考えており、また、おいしいという回答が昨年（35%）よりも増加しました。
3. 最近の献立についても、食品の組み合せ（昨年19%）・献立の変化（昨年18%）・盛り付け（昨年29%）とも、よいという回答が昨年よりも増加していました。
4. 今回の調査は、一般常食喫食者について集計しており、比較的食欲のある人の意見が中心でありますが、今後、NST（症例や各疾患治療に応じて栄養サポートを行なうチーム）や病棟との連携をとりながら、患者様個々の疾病・状態に合わせた食事を提供できるよう努力していきたいと思います。

年男 年女 の抱負

検査部
安蔵　　充

息子も酉年生まれなので、酉年生まれの守り本尊（守護仏）である不動明王を奉ってある県内のお寺を、親子で一緒に巡ってみたいと思っています。「ノウマクサマンダバサラダンカン」。職場においては厳しい一年になると思いますが水戸地区接遇No1病院になれるよう微力ながら頑張りたいと思います。

看護師
木村　郁美

就職し２年たちました。看護師になったときに自分の中で「自己学習を怠らずに常に勉強する。」と決めていましたが、日々の業務をこなすことがやっとで自分の勉強がおろそかになっていました。今年度は、初心に戻り仕事も一生懸命に行なっていきたいと思います。

看護師
佐藤美智子

新年おめでとうございます。あっという間に一年が過ぎてしまいました。今年の抱負？今年は年女ですが毎年、新年を迎えても特別な抱負を抱いたことはありませんでした。前向きに生きようとかダイエットしようとか、その程度です。今年は本を読むことから離れていたので、買ってまだ読んでいない沢山の厚い本を読む時間を作ろうと考えています。あとは自分を含め家族がマイペースで穏やかに毎日を送ることが出来ればいいと思っています。

看護師
泉川さか江

新年明けましておめでとうございます。今年は酉年、年女です。ケッコー、ケッコーと福が逃げないよう一生けんめい頑張りますのでよろしくお願いします。

看護師
金子佐知子

この原稿の依頼が来たことで、改めて自分の年齢を自覚しましたが、いつの間にか年女になっていて、自分でも少し戸惑っています。年女も３回目ともなれば、もう少し年相応に落ち着きを持った生活をしなければと思っています。また、今年は私生活でも色々と新しい生活が始まる年でもあるので、十分気を引き締めていきたいと思います。そして、少しだけ、家事にも力を入れたいなぁとも考えています。

放射線部
中澤　裕一

新年明けましておめでとうございます。最近ますます日々過ぎるのが、早く感じられるこの頃です。
早いもので、この病院にお世話になってから早くも2度目の年男を迎えることになりました。新年の抱負は健康に1年が過ごせるのが、1番と思っていますが、前回の年男の時は独身でしたが、今は家庭を持ちましたので、家族の健康も同時に願っています。
また次回の年男までに少しでも成長した自分でいられるよう、仕事もプライベートもがんばっていきたいと思います。

2004 年末年始恒例行事 2005

クリスマスコンサート

忘　年　会

生花クラブ

新　年　会

クリスマス

第28回茨城県救急医学会に参加して

3西病棟
看護師長　中野はる代

急変患者に遭遇したとき、救急医療に携わるものであれば、患者の状態を迅速に正しく把握し、適切な処置が要求されるのは医師に限るものではありません。最初に急変時の対応に遭遇する頻度が高いのは救急救命士や看護師です。しかし、わが国においてはその場に関わった医療従事者の考え一つで様々な対応が行われているのが実際です。

２００３年10月より、ＡＨＡ（アメリカ心臓協会）公認のＢＬＳ（一次救命処置）・ＡＣＬＳ（二次救命処置）の習得コースが日本で開催可能となりました。それにより不整脈患者や心停止患者に対する標準化された治療を学び、救急蘇生できることを目的としています。２００４年４月からは全国各地で開催され始めており、茨城県でもトレーニングサイトが立ち上がり、メディカルコントロール協議会主催のＡＣＬＳ・ＪＰＴＥＣプロバイダーコースが開催されています。各医療機関でも、ＡＣＬＳコースの習得を目指した救急トレーニングを実施しているところが増えています。

今回の救急医学会は９月11日、茨城県メディカルセンターで開催されました。県内で取り組んでいる、様々な救急の対応や対策について98題の発表がありました。水戸協同病院でも、「手術室からの安全な移送を考える」「小児の誤飲」「手術患者チェックリスト一体化の有用性」「当科における時間外の小児救急搬送専用ＰＨＳホットラインの運用状況」など看護師・医師による４演題の発表がありました。日頃から救急の現場で苦悩し、医療者として迅速に何が出来るか、また予防出来ることとは何かを考え、取り組んだ事柄をまとめた発表内容でした。また、特別講演では、船橋市立医療センターより救急救命センター部長の境田康二先生が「ＡＣＬＳとは？」というタイムリーな題材で、ＡＣＬＳ教育について熱く講演されました。「現在、日本ではＡＥＤ（自動体外式助細動器）が病院・飛行機内などに設置されるようになってきました。しかし、多くの日本人が真面目で慎重な気質であることから考えると、アメリカのように街角に設置されてもＡＥＤを触ることもできないでしょう。まず救急に携わる医療従事者や救急救命士をトレーニングすることが必須である」と述べられていました。今後も病院と救急救命士がタイアップして、一人でも多くの救命が出来るようにしていきたいと再認識させられた学会でした。

〈 院内探索 〉

休憩所のご案内

本館の内科と外科の間の病棟入り口を通りますと休憩所があります。休憩所にはお水とお茶が無料で置いてあり、ちょっとした休憩ができます。一度利用してはいかがですか？

学会発表他（10月）

＊第９回日本糖尿病教育・看護学会
・演　題：摂食障害患者の退院に向けての援助
　　ー依存が強いS氏への関わりの
　　振り返りと課題ー
発表者：看護部（３西病棟）鈴木　さゆり
発表日：９月19日

＊53回日本農村医学会学術総会
・演　題：当院職員における麻疹・風疹・水痘・ムンプスの抗体保有状況
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：10月７日
・演　題：プライマリナーシング導入後の評価
発表者：看護部（４西病棟）川又　光子
発表日：10月８日
・演　題：要因分析法を取り入れたヒヤリハット対策
発表者：看護部（４西病棟）菊池　美恵子
発表日：10月８日

＊第４回茨城県骨・関節フォーラム
・演　題：サッカー選手に生じた足関節内果疲労骨折
発表者：整形外科　　平野　篤
発表日：10月29日

学会発表他（11月）

＊第34回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会
・演　題：長期投与における患者の意識調査
発表者：薬剤部　　真家　洋子
発表日：８月28日

＊第８回日本ワクチン学会学術集会
・演　題：インフルエンザワクチン接種後のHI抗体価の推移
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：10月９日
・演　題：教育学部在籍の大学生における麻疹･風疹･水痘・流行性耳下腺炎の抗体保有状況
　　ー現在のワクチン接種の問題点と対策ー
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：10月９日

＊第98回茨城整形外科集談会
・演　題：難治性長管骨偽関節に対しイリザロフ式創外固定器を用いた治療経験
発表者：整形外科　　野澤　大輔
発表日：11月７日

＊第207回茨城外科学会
・演　題：術前診断が可能であった結腸型虫垂粘液癌（mucinous adenocarcinoma）の一例
発表者：外科　　彦坂　信
発表日：11月７日

＊萬徳寺保育園　子育て講演会
・演　題：ヒトとその子育ての自然なあり方を考える
　　ーヒトの''いきるちから"を信じてー
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：11月11日

＊第36回日本小児感染症学会
・演　題：現行のワクチン接種の問題点と対策
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：11月12日
・演　題：肺炎クラミジア感染症における血中抗体価の推移
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：11月12日
・演　題：一般市中病医院におけるインフルエンザ脳症に対する戦略ーインフルエンザ脳症をいかに診断し対応するかー
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：11月13日

＊第22回厚生連薬剤師研修会
・演　題：ヒヤリハット報告事例ー入院患者に対してー
発表者：薬剤部　　廣木　崇子
発表日：11月13日

＊第78回日本小児科学会茨城地方会
・演　題：小児の包茎に対する
　　ステロイド軟膏療法の経験
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：11月14日
・演　題：インフルエンザワクチン接種後のHI抗体価の推移
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：11月14日

＊瓜連保育園講演会
・演　題：ヒトとその子育ての自然なあり方を考える
　　ーヒトの"いきるちから"を信じてー
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：11月17日

＊第５回茨城県北形成外科研究会
・演　題：Amelanotic malignant melanomaの一例
発表者：形成外科　　伊藤　正洋
発表日：11月19日

論文発表（11月）

＊掲載誌：茨城県農村医学会雑誌
・論　文：診断過程に反省点の残る頭蓋内病変を有した３小児例
著　者：小児科　　田中　敏博
分　類：症例報告
・論　文：診断に苦慮した肛門輪直前膨大部腫瘍の１治療例について
著　者：外科　　川崎　恒雄
分　類：原著
・論　文：胃癌手術における尾側膵切除・摘脾の意義
著　者：外科　　津久井　一
分　類：原著

学会発表他（12月）

＊第49回日本未熟児新生児学会
・演　題：スポンジ圧迫療法が奏功した巨大臍ヘルニアの１例
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：12月７日

＊常北町子育て講演会
・演　題：ヒトとその子育ての自然なあり方を考える
　　ーヒトの“生きるちから”を信じてー
発表者：小児科　　田中　敏博
発表日：12月14日